

2011年度 伊藤専門ゼミナール

「聴覚障害学生の学内での授業環境」

F08017 猪俣 絢花

F08031 倉島 琴音

目次

| | | |
|------------|-----------|-----|
| 目的 | ・ ・ ・ ・ ・ | P 3 |
| スライド作成の方法 | ・ ・ ・ ・ | P 3 |
| アンケート作成の方法 | ・ ・ ・ | P 3 |
| スライド制作の結果 | ・ ・ ・ ・ | P 4 |
| アンケートの結果 | ・ ・ ・ ・ | P 4 |
| 考察 | ・ ・ ・ ・ ・ | P 6 |
| まとめ | ・ ・ ・ ・ ・ | P 7 |
| 参考文献 | ・ ・ ・ ・ ・ | P 7 |

1、目的

長野大学には、聴覚障害者への授業支援として、ノートテイクやJOIN プロジェクト等がある。

私たちが行ってきたJOINプロジェクトは5年間学生支援という形で聴覚障害学生の授業支援を行ってきた。JOINプロジェクトは音声認識システムを活用し、リアルタイムに教員の発する言葉を知ることができる。しかし誤変換や同音意義語等があり、正しく表示されない。そのために人の手で編集を行う必要がある。そこで編集したものをポータルサイトにアップし、公開した。そこにアップされたものは音声と字幕とパワーポイントが同時に見ることのできるものとなっていた。しかし聴覚障害学生にとって本当にこれで見やすいものになっているのかという疑問が浮かんだ。JOINプロジェクトは利用活用頻度の少なさや、プログラムの使いづらさといった理由から学生支援という形での活動を終えたがJOINプロジェクトで生まれた疑問を解決しようと思った。そこで私たちは障害の有無を問わずに同じ情報を得るにはどのようにすればよいかを考察することを目的とし活動を行っている。



2、スライド作成の方法

HMD（ヘッドマウントディスプレイ）を利用し直接的に文字情報を視覚表示する場合、文字情報を映画の「字幕」的に画面の下方へ表示するものと、画面全体に文字を表示するなど、多様な情報呈示を試み、どのような場合が心的負担の少ない呈示方法であるかを知るための実験を計画している。その実験のためのスライド作りを行っている。パワーポイントで画像と文字を用い、二択で正しいほうを選択させるというものである。

3、アンケート作成の方法

私たちは、聴覚障害学生の授業参加に関する調査として、ノートテイクの有効活用について、長野大学の聴覚障害学生にアンケートをとった。また、聴覚障害学生の授業参加の実態や考えていることを把握するためという目的があった。

先生のアドバイスを受けながら作成したアンケートの内容は、利用頻度、授業への参加意識、授業を受ける座席、ノートの活用法、ノートテイクへの要望など7項目である。配布枚数9枚、回収枚数7枚で回収率は78%となっている。

4、スライド作成の結果

今回のスライド作成では、難しい問題 22 個、簡単な問題 65 個の計 87 個の問題の作成が出来た。しかし、システム未完成のため、実際の実験は行うことはなかった。

5、アンケート

～アンケート内容～

- 1、ノートテイクの利用頻度（1 週あたりの時間数）
- 2、ノートテイクの登録状況（自分が登録した科目と、他の聴覚障害学生が登録した科目のテイクを利用させてもらっている科目）

- 3、ノートテイクを利用することで「授業の場に参加している」という意識を他の学生と共に共有することができるか（いずれか1つに ）

十分に参加していることを意識出来ている

科目によっては参加していることを意識できる

テイクによっては参加していることを意識できる

授業に参加していることを意識することは少ない

授業に参加していることを意識することは全く無い

授業では疎外感を感じる

その他（ ）

- 4、 ～ の場合について、授業の状況を文字情報によって、伝えられることはあるか？
ある ・ ときどきある ・ ほとんどない ・ ない ・ わからない

- 5、ノートテイクを利用する場所（教室内の座席位置）についてお答えください
（複数回答可）

スクリーンや黒板の見やすい前列中央に座ることが多い

スクリーンや黒板と、記録（PC画面や記録用紙）が同じ方向になるような位置に座るようにしている

他の友達が多い位置に座るようにしている

友達の迷惑にならないよう誰も居ない位置に座るようにしている

特に座席位置について考えたことは無い

記録（PC画面や記録用紙）しか見ないのでどこに座るかは決めていない

その他（ ）

6、ノートテイクによって作成された授業記録の活用方法について

（複数回答可）

授業の復習において、ノートテイクの記録をもとに自分のノートを別に作っている

授業の復習において、ノートテイクの記録をもとにテキストや配布資料を読み直している

授業の復習において、ノートテイクの記録を読み直している

授業の復習には、ノートテイクの記録をあまり活用していない

授業の予習復習はあまりしていない

授業の予習復習はほとんどしていない

その他（ ）

7、ノートテイクによって作成された授業記録の内容についてお答えください

（複数回答可）

記録は読みやすく、復習のためにとっても役に立っている

復習をすることで記録の間違い（誤字、誤記など）の訂正も容易にできる

記録は定期試験前の勉強にとっても役に立っている

復習ではテキストや配布資料で勉強しており、記録は使っていない

記録はファイルして、テキストと同じように定期試験の時に活用する

記録を失くしてしまうことが多く、あまり内容を見ることは少ない

その他()

～アンケート結果～

| 被験者 | 利用頻度 | 自登録 | 他登録 | 参加意識 | 状況連絡 | 座席 | 活用 | 内容 |
|-----|------|-----|-----|------|------|----------|----------|----------|
| A | 9 | 5 | 0 | 2 | 2 | 1.2 | 4.5 | 4.5 |
| B | 3 | 3 | 0 | 1 | 2 | 1.2 4 | 1.3 | 1.2 3 |
| C | 9 | 5 | 2 | 1 | 2 | 6 | 4 | 4 |
| D | 8 | 5 | 2 | 2 | 2 | 3.5 | 2.3 | 3 |
| E | 7 | 5 | 2 | 3 | 1 | 1 | 1.2 3 | 1.2 7 |
| D | 2 | 2 | 0 | 3 | 2 | 1.3 | 2 | 1.3 4 |
| F | 9 | 5 | 3 | 2 | 5 | 2.5 | 3 | 3.4 |

設問7の 自由記述

・記録は全てノート(復習時)に転機している。

6、考察

このアンケートの結果から、被験者 E さんはテイカーが記録したノートを自分でノートにまとめている一方でその他の人はテイカーの記録をそのまま復習に活用している状況である。私たちは授業時にスライドやプリントを見ると共に教員の言葉による説明によって

授業内容の理解をしている。その言葉から自分に必要なものだけを選択してノートなどに記録をしている。そうすることで自分にとって1番分かりやすく理解しやすいノートを作成しているのである。しかし、聴覚障害学生はその教員の言葉というものをほとんどテイカーの記録するノートで補完している。テイカーの記録はあくまで教員の言葉をそのまま文字にしたものであり、自分が必要としている情報をまとめていくという作業がなければ一般の学生と同じように授業の内容を理解するという事は難しいのではないかと思った。

しかし、多くの学生がそれに気付いていないと共にこういったことがきちんと分かる環境になかったのではないかと思った。聴覚障害学生自身はもちろんのこと、授業を行う教員、また、ノートテイカー、聴覚障害学生の周りの学生など、皆が気を配り、意識をして環境を整える必要があると感じた。そうすることで聴覚障害学生を含む全ての学生が着実に学ぶことのできる環境になるのではないかと思う。

7、まとめ

このゼミでの研究をしてみて、聴覚障害学生の授業環境や状況を知ることができた。また、考察で述べたような、聴覚障害学生の意識の問題や、健常学生との環境の違いから生じる授業理解の差があるように感じた。この研究から、聴覚障害学生の授業支援ということは私たちが想像していたよりもずっと深いテーマであり、今後、改善していくべき課題であると感じた。

8、参考文献

若月大輔・内藤一郎・三宅太一・元西洋平 著

「マイクロプロジェクトを用いた聴覚障害者のための学習支援システムに関する基礎的検討」 電子情報通信学会 WIT2011-4(2011-05) P.19～24 2011年

田中観自 著

「聴覚障害者と健聴者における視覚的注意の差異の検討」 電子情報通信学会 WIT2011-7(2011-05) P.35～40 2011年

吉田 瞳 著

「高等教育における聴覚障害者の自立支援」ミネルヴァ書房 2010年

- ・筑波技術大学 <http://www.tsukuba-tech.ac.jp/ce/xoops/file/seika/tipsheet.pdf>
- ・arsvi.com <http://www.arsvi.com/d/sr.htm>
- ・筑波技術短期大学 http://www.tsukuba-tech.ac.jp/pdf/gp_report.pdf#search
- ・産総研
http://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2003/pr20030623/pr20030623.html

平成 2 4 年 3 月発行

本件に関する問い合わせ先

伊藤英一（教授）

<http://www2.nagano.ac.jp/ito/>

長野大学 社会福祉学部

長野県上田市下之郷 6 5 8 - 1

0268-39-0001(代)